

2007 年度

科目名 日本語学特講	対象学科・学年 専攻科教福1回生	担当者 宇都宮 啓吾	
授業テーマ 古典籍を多角的に考える。			
授業の概要と目標 古典籍について、注釈書や系図・血脈（僧侶の師弟関係を記した系図）を利用して分析することで、多様な「読み」を考える。			
評価方法 レポートと平常点（全講義数の2/3以上の出席が前提）で総合的に評価します。 レポートはE-mail（ utunomk@osaka-ohtani.ac.jp 件名：【日本語学特講レポート】）で提出すること。			
テキスト 特に指定しません。適宜、プリントを配布をします。	著者	出版社	
参考書 特に指定しません。適宜、紹介します。	著者	出版社	
授業スケジュール・内容			
	時間	テーマ	補足
導入	1	オリエンテーション	卒業論文に向けて
指導①	2 ～ 7	古注釈の世界	源氏物語・古今和歌集・新古今和歌集・伊勢物語等の古注釈を取り上げて、中世における古注釈の世界を解説します。
指導②	8 ～ 15	日本書紀抄を読む	日本神話を記録した日本書紀は中世には大きな変貌を遂げ、新たな日本神話が創造されます。そのような作品として、日本書紀抄や沙石集などの説話集を読んでいます。
指導③	16 ～ 19	平安文学の時代背景と造型	平安文学を巡る人物関係と時代背景から物語の造型を考える。
	20 ～ 24	平家物語の登場人物を巡る問題	平家物語に登場する人物（例えば、平清盛）を巡る問題を、伝説・説話と人物相関図の視点から考える。
	25 ～ 29	院政期の僧侶の活動	聖教の書写を通して、院政期の僧侶がどのような教学的活動をしていたのかを考える。
総括	30	講義全体の総括	講義全体の総括